タペストリー紹介

＊ふじしま獅子踊り

＊羽黒山五重塔（夏）

＊羽黒山五重塔（冬）

＊加茂水族館

＊致道館

＊六十里越街道

＊大寶館

＊黒川能

＊出羽三山精進料理

＊清流温海川

ふじしま獅子踊り

ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City of Gastronomy
ふじしま獅子踊り
TSURUOKA-YAMAGATA

ふじしま獅子踊り

藤島地域は、獅子郷といわれるほど獅子踊りが多く保存・伝承されている。

大谷・添川・東堀越・八色木・豊栄・渡前などがあり、どの地域も起源は判然としないが、ずいぶん古くからのもので、唐が西洋から学び、更に我が国が唐に習ったものといわれ、悪魔退治のために舞ってきたものである。

獅子は、一人立ちのもので、中獅子（なかじし）、旗獅子（はたじし）、白鷺（しらさぎ）、牡獅子（おじし）、牝獅子（めじし）の５頭からなり、中獅子が中心となって演じられる。頭の前部の飾りは獅子によって異なっている。頭から幕を下げ、腹の前に太鼓をつけ、肩張りのわっかをつける。

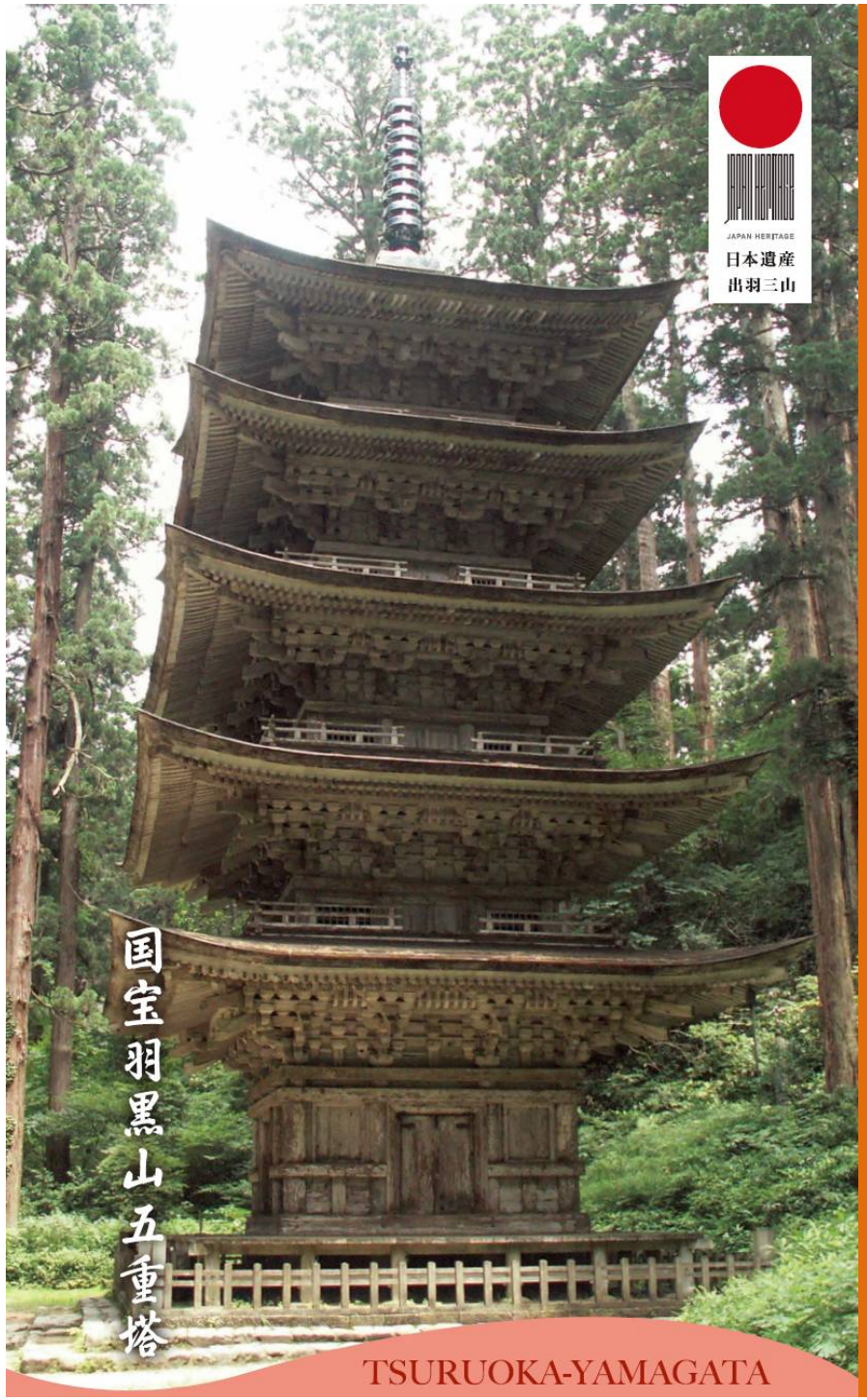
獅子のほか女装の舘（ささら）、太刀遣い、棒遣い、唄い役など総勢30人ほどになる。唄に合わせ、太鼓を打ち鳴らしながら、飛び跳ねるように舞うのである。

曲目は、ところによって違いはあるが、大踊り、橋掛り、幕掛り、女獅子狂い、弓踊り、投草などである。適宜組み合わせるわけである。

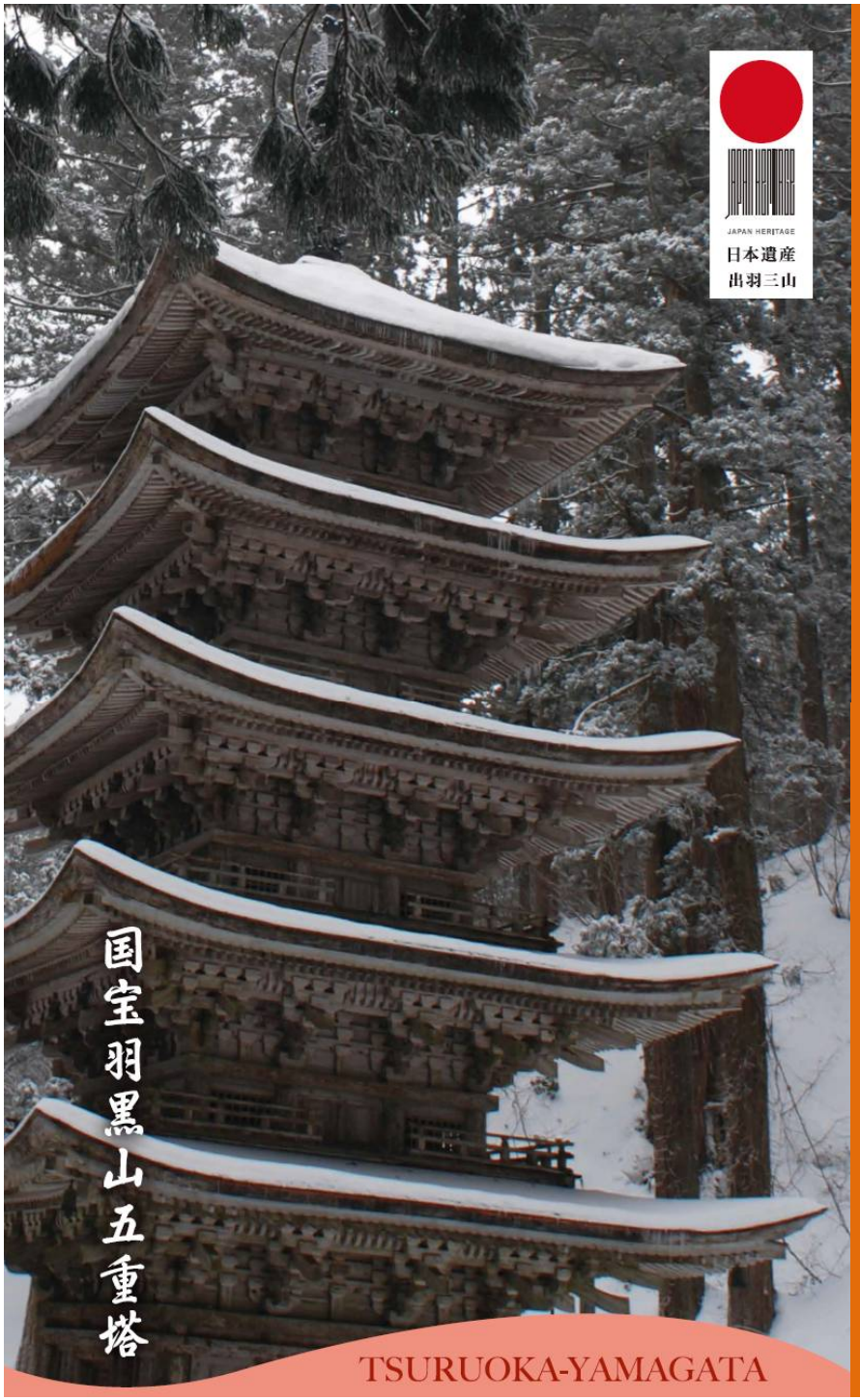
盆中心の祭りに踊ることが多く、精入れの後、神社でまず踊り、ついで氏子の家々を求めに応じて廻る。

この種の踊りには、大きく分けると二つの要素からなっている。その一つは、獅子が神の使命あるいは、神そのものとなって現れ、村や家々の幸せを祝福する形を示す。

鶴岡市観光連盟ホームページより



羽黒山五重塔（夏）



羽黒山五重塔（冬）

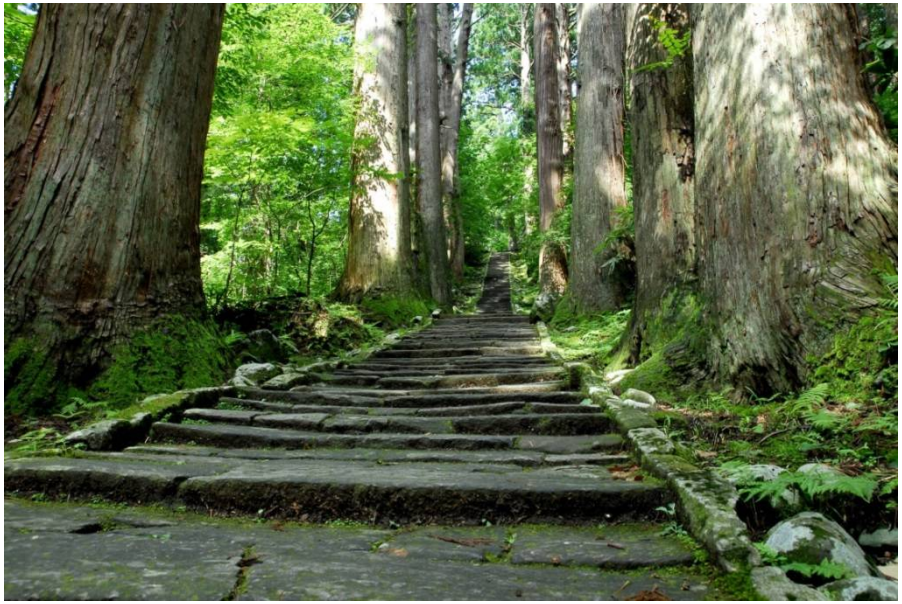
羽黒山五重塔

羽黒山参道、“一の坂”上り口の杉並木の中にある。東北地方では最古の塔といわれ、平将門の創建と伝えられる。

現在の塔は、約600年前に再建されたものといわれる。

高さが29.0mの三間五層柿葺素木造で、昭和41年には国宝に指定された。近くには樹齢1000年、樹の周囲10mの巨杉“爺杉”がある。

鶴岡市観光連盟ホームページより



羽黒山杉並木

随神門から始まる表参道は、全長約1.7km、2446段の長い石段である。両側には樹齢350～500年の杉並木が続く。

その数は400本以上で国の特別天然記念物に指定されている。

山頂まで徒歩約50分。途中の石段には盃やひょうたん、蓮の花などが33個彫られているといわれ、これを全部みつけた人は願いがかなうといわれている。二の坂茶屋で石段を踏破した認定証を渡している。

鶴岡市観光連盟ホームページより

ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City of Gastronomy
鶴岡市立加茂水族館
クラゲドリーム館
TSURUOKA-YAMAGATA

加茂水族館

加茂水族館（クラゲドリーム館）

山形県内唯一の水族館。クラゲの展示種類（50種類以上）は世界一を誇り、色とりどりの様々なクラゲが漂う様子はとても魅惑的です。このほかにも子どもに人気のアシカショーやウミネコの餌付けなど楽しさ満載。家族で訪れてほしいスポットです。

鶴岡市観光連盟ホームページより

ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy
国指定史跡
庄内藩校 致道館
TSURUOKA-YAMAGATA

致道館

いにしえの館…①
藩校（はんこう）致道館（ちどうかん）

18世紀の後半、庄内藩は「行きづまった財政をどうたてなおすか？」「暮らしに困っている農民たちをどう救うか」などの問題のほかに、その頃、藩士たちがはでな暮らしをし、武士らしくないふるまいをする者が増え、藩の将来を思う庄内藩主酒井家9代・酒井忠徳は心を痛めていました。

忠徳は藩の郡代である白井矢太夫に相談し、「学校を作って立派な人間を育て、武士たちの心の乱れを正して藩政をたてなおそう」と決心しますが、藩の財政が火の車の時でしたからどうにもなりません。

農政改革の実施などで、農民たちの暮らしが少し楽になり、藩の財政が落ち着いてきた寛政12年に、ようやく学校を建てる命令がだされ、文化2年に校舎が完成しました。

致道館の名前は、論語にある「君子ハ学ビテ以テソノ道ヲ致ス」から名付けられたものです。

「人はうまれつき得手・不得手があるものだから、一人ひとりの優れている面を伸ばすようにしなさい」 忠徳が開校にあたって先生方に出した教育指針にはこのような言葉があります。致道館では、天性の能力と自主性を重んじた教育がなされました。

多くの優れた人材を世に送り出したのち、廃藩置県により、明治6年に廃校となりました。

その後、県庁舎や警察署、小学校に使われたり、一部は取り壊されたり売られたりなどのはげしい移り変わりがありましたが、現在、東北地方に残るただひとつの藩校建造物となっています。昭和26年には、優れた文化遺産として国の史跡に指定されました。

鶴岡市観光連盟ホームページより

六十里越街道

六十里越街道

山形県庄内地方と内陸を結ぶ「六十里越街道」は、1200年前の古代から開かれたと伝えられています。

鶴岡から松根、十王峠、大網、田麦俣、湯殿山、大岫峠を越え、志津、本道寺、寒河江を通り山形に至る険しい山道で、山岳信仰が盛んだった室町・江戸時代には、湯殿山を目指し、東北・関東の各地から訪れる「道者」（参詣者）たちで賑わった“ゆどのみち”。

また戦国時代には軍馬が足跡を刻み、藩政時代には、徳川四天王の筆頭、酒井忠次の孫・忠勝が入部以来、酒井家が約250年にわたり統治した庄内藩をはじめ諸藩の参勤交代にも利用されたという記録が残っています。

あさひ村観光協会ホームページより

大寶館
ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy
TSURUOKA-YAMAGATA

大寶館

大寶館

大正天皇の即位を記念して大正4年(１９１５)に建てられた、赤いドームと白壁が特徴の洋風建築物。

開館当初は物産陳列場、戦後は市立図書館として利用され、現在は、明治の文豪・高山樗牛や日本のダ・ヴィンチといわれた松森胤保など、鶴岡が生んだ先人たちの偉業を讃える資料を展示しています。

鶴岡市観光連盟ホームページより

国指定重要無形民俗文化財
黒川能
ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City of Gastronomy
TSURUOKA-YAMAGATA

黒川能

黒川能の心 王祇（おうぎ）祭

鎮守である春日神社の年４回の例祭に、神事として黒川能が奉納されますが、中でも天地凍てつく旧正月に行われる「王祇祭」（おうぎさい）は最も重要なお祭りとなっています。

２月１日の未明、春日神社の神霊が宿る王祇様を上座、下座それぞれの民家（当屋）にお迎えします。

座衆一堂に会しての座狩（総点呼）があり、振る舞いが行われた後、夕刻から幼児が勤める「大地踏」で黒川能は始まり、式三番、続いて能５番、狂言４番が夜を徹して演じられます。

翌２日には、ご神体が春日神社に還り、神前で両座が脇能を一番ずつ演じ、その後大地踏、式三番が両座立ち会いの形で行われます。

祭りは、春日神社境内の階段をご神体を手に駆け上る「尋常事」（競争事）など様々な神事を織り込みながら、すべてが終了するのは夕刻に及びます。

ご神体の衣布は翌年の当屋に授けられ、また１年をかけて準備に入ります。

王祇祭と黒川能は、お互いに命を与えあい支え合っています。そして黒川の人びとの生活サイクルは、王祇祭を中心にめぐっています。

祭りと能と生活が一体となった村、それが黒川であり、黒川能の里です。

鶴岡市観光連盟ホームページより

ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

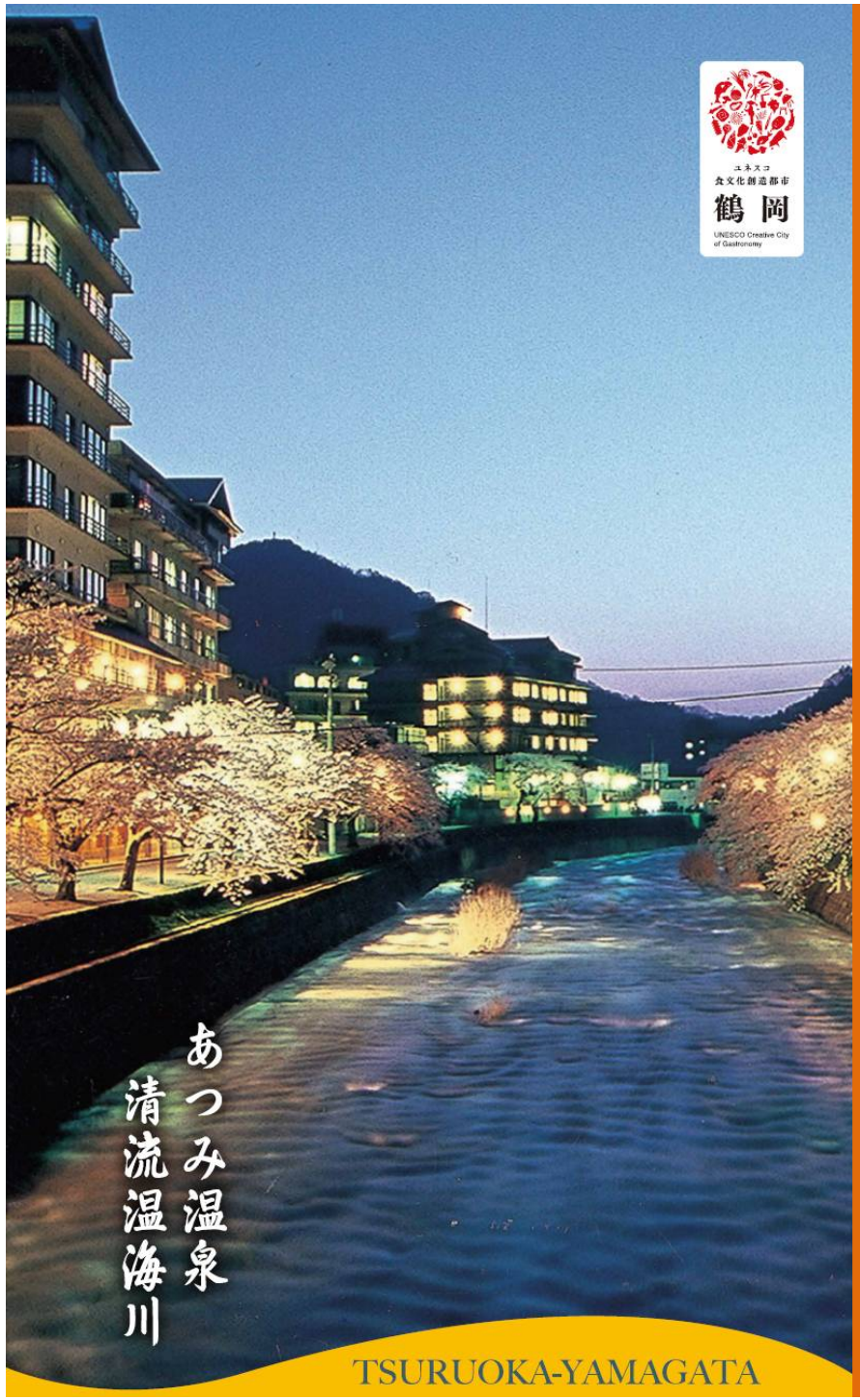
出羽三山
「精進料理」

TSURUOKA-YAMAGATA

出羽三山精進料理

“出羽三山の精進料理”は、出羽三山の修験道によって育まれた料理です。修験道とは、人と自然と関わりを深く見つめる修行者たちの信仰のこと。羽黒修験道は、月山山麓の高度な食文化をベースに、寺院で発達した精進料理を山伏の自給自足の食生活に融合させ、さらに日本海を渡った京の感覚をも取り入れて、固有の「精進料理」を誕生させました。羽黒修験道において食すことは、心身を養うだけでなく、自然に宿る神仏や精霊とともにある「おこない」を意味しています。

出羽三山精進料理の品々には、出羽三山信仰に所縁ある聖地に見立てられた名前がつけられています。これから出羽三山を駈けようとする人は、信仰と聖地をあらわす料理の説明を受けて一品一品を口に運びます。私たちは出羽三山の精進料理を食すことで、聖なる山々から贈られた“生命の源泉”そのものを味わうことになるのです。　　羽黒町観光協会ホームページより


ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City of Gastronomy
あつみ温泉
清流温海川
TSURUOKA-YAMAGATA

清流温海川

あつみ温泉はやわらかな湯と清流の音が心地良い風情ある温泉地。良質の温泉と旬の食材を使った料理、あたたかなおもてなしが自慢の宿が並びます。温泉街を流れる温海川河畔は、春は桜、夏の鮎釣り、秋には鮭の遡上と四季折々の表情を見せ散策におすすめです。川辺の足湯やウッドデッキでひと休みすれば、寛ぎのひとときが心を癒してくれます。朝市や共同浴場で地元の人達とのふれあいも楽しい温泉街です。

あつみ温泉は桜の名所として知られています。温海川のほとりの約130本の桜が、川面に垂れ映える様子は実に美しいものです。（東北・夢の桜街道四十九番札所）

鶴岡市観光連盟ホームページより

鶴岡市観光連盟

〒997-8601
山形県鶴岡市馬場町9-25
（鶴岡市観光物産課内）
電話：0235-25-2111（代）
FAX：0235-25-7111
HP：https://www.tsuruokakanko.com/
Email：kanko@city.tsuruoka.yamagata.jp